

平成20年度「小中高 夢のかけ橋推進事業」実施報告書

東京都立晴海総合高等学校

全日制課程

1 計画の概要

訪問授業、体験授業、部活動による交流、学校行事による交流、ボランティア活動を通して、異校種・異年齢の子供とのかかわりで、本校生徒に思いやりの気持ちを育て、学習意欲を高めることを目標としている。

- 1 訪問授業—外国語科教員による中学生を対象とした訪問授業（フランス語、ドイツ語、スペイン語）を実施した。
- 2 体験授業—「家庭総合」において、本校生徒による幼稚園児、小学生児童への絵本の読み聞かせ及び手遊びの手ほどきを行った。また、「児童文化」において本校生徒による幼稚園児や保育園児へのリトミック指導及びペープサートやパネルシアターの実演を行った。
- 3 部活動による交流—剣道部、ダンス部、水泳部、箏曲部、吹奏楽部が、近隣中学校との合同練習、合同コンサートを行ったり、高齢者への慰問活動を行ったりした。
- 4 学校行事による交流—「食育」の一環として幼稚園児との調理実習や昼食会を実施した。また、体育祭や文化祭に近隣幼稚園児や保育園児を招待し交流を行った。
- 5 ボランティア活動—「奉仕」の授業以外に、冬季において小学生低学年の安全確保のための下校時の付き添い活動を行った。また、今年度は新たに夏季に児童館における様々な行事の補助を行い、近隣小学生との交流を行った。

2 実施内容

【学校行事による交流】

「食育」の一環として、本校の生徒が近隣幼稚園児と本校調理室で乳業協会の協力を得ながら合同調理を行った。調理後、本校ラウンジで昼食会をもち、当日のレシピを振り返りながら会話を楽しんだ。また、当日のレシピは事前に本校生徒が手作りのレシピボックスに絵手紙として入れ、当日参加できなかった園児の保護者への土産としてあげた。園児からはお礼に合唱の披露があり、日ごろの授業「家庭総合」「児童文化」の交流同様、充実した時間を過ごせた。



3 成果と課題等

【成果】

異校種の児童生徒とのかかわりを通して、総合学科としての本校の特色をアピールすることができた。また、異なる年齢の児童との交流を通して本校生徒に思いやりの気持ちを育むことができた。さらに、部活動の交流においては、部員同士の結束力を強めることができ、本校への帰属意識を高めることができた。

【課題】

教育課程上の活動時間帯の違いから、交流前の事前打合せにかなりの時間を要することが課題となった。

